

二〇二五年二月二五日(参加者一四名)

千体地藏彩とりどりの毛糸帽	ぼんこ
普賢菩薩像の慈顔や冬温し	ぼんこ
着ぶくれて押すな押すなのバーゲンへ	ぼんこ
名苑の辞するに惜しき冬紅葉	宏 虎
四阿の固き木椅子や冬ざるる	宏 虎
暗き堂出て目潰しの冬日燦	せいじ
砂庭に濃ゆき堂影冬日向	せいじ
姿よき松を映して池小春	よし子
超高層ビル影揺らぐ池小春	よし子
実千両灯す庭隅茶筌塚	満 天
日向ぼこ腰痛封じの石に座し	満 天
出揃ひて亀日向ぼこ石舞台	わかば
あひ互ひ息災祈り年忘れ	わかば
白壁を映す林泉櫨もみぢ	よう子
池の面に声を落として鴨翔ちぬ	よう子

冬うらら寶頭盧天のぴかぴかと 明日香

散紅葉仏足石にとどまりぬ 明日香

冬あやめ茶室へ凜と裾さばき 菜々

寺小春廻して軽きマニ車 菜々

落葉踏む池泉の庭をたもとほり 小袖

義士祭の名残の寺や子守柿 小袖

積木めくアベノハルカス秋天下 うつぎ

うるこ雲貫かんとす摩天楼 有香

定例会みのある選

二〇二五年二月二五日(参加者一四名)